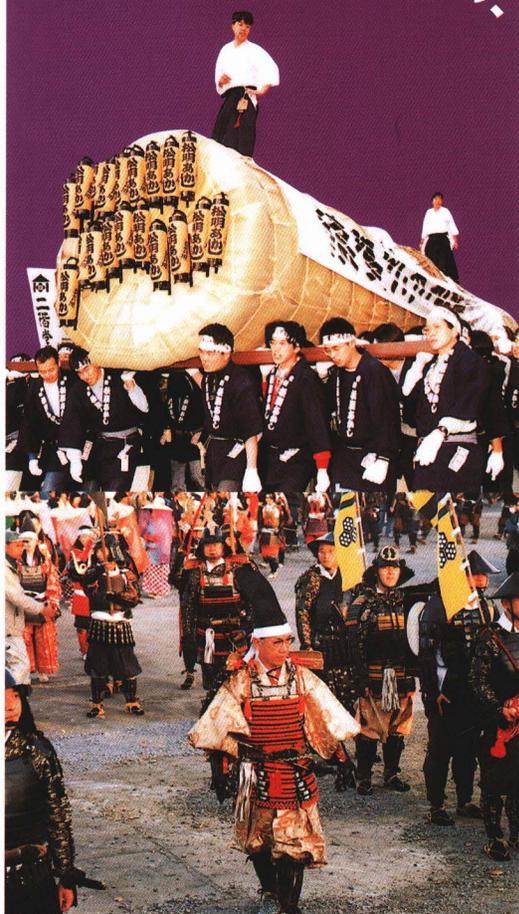


400余年の熱い息吹きが勇壮無比の炎となり、
晩秋の一夜、天空を赤々と焦がす。

松明あかし



須賀川城落城 慰霊の火祭り

天正17年（1589）10月、会津の黒川城（現在の鶴ヶ城）を攻め落とした伊達政宗は、その余勢をかって須賀川城に攻め寄せました。当時、須賀川城は、政宗の伯母に当たる二階堂盛義の未亡人・大乗院が居り、その造りは、四方を崖に囲まれ、容易に破られるものではなかったと伝えられています。

しかし、重臣の謀反により、10月26日未明、落城。4百年にわたり須賀川地方一帯を支配した藤原鎌足の子孫・二階堂氏も、ついにその歴史を閉じることとなったのです。この日より16日前の10月10日の夜、抗戦を決意した大乗院は、家臣を城の東の丘に集結させましたが、そこには、手に手に松明をかざした農民や町民も大勢集まりました。

以来このことちなみ、領民たちは、むじな狩りにこと寄せて、慰霊の火祭りを

